

夏休み前の総仕上げ!!—第2回定期試験—

来週からは第2回定期試験です。普段から授業を大切にしている人は、いつものペースを上げていくことで対応できると思いますが、そうでない人は、思い切った学習の仕方が必要だと思います。ただし、本番で眠たくなって集中できないなどということがないように計画的に学習しましょう。また、模擬試験とともに、この第2回定期試験の結果によって、夏休み学習すべきポイントが決まっていきます。直前の過ごし方については以下を参考にしてください。

テスト前の過ごし方「五箇条」

- 1、徹夜は絶対にするな！ 覚えたことを長期記憶に変えるための「睡眠」は必須。
- 2、いろいろな勉強方法を試せ 普段やらない方法を試してみることで、脳を刺激、活性化することができる。
- 3、寝る直前まで勉強せよ。直前にやるのは「暗記もの」がベスト！
- 4、睡眠時間は1・5時間の倍数で。寝つき良くするためにはホットミルクが最適。入浴は「テスト当日」にシャワーを浴び、頭脳を活性化させる。
- 5、テスト当日の朝には、教科書は読むな！ なまじ当日に「付け焼き刃」をしても、自信を失うだけ。自信の有無は、試験本番では「天地の差」になって出る。

[参考 『東大へ行こう!』(講談社)]

普段勉強していない人が、直前にだけ勉強して意味があるのかと思う人もいるかと思いますが、「試験範囲を暗記すれば暗記力がアップするし、必死に勉強すること自体が脳の働きをたかめる」(齋藤孝氏)そうです。意味がないからといって始めずにいると、気付いた時にはもう遅いということになってしまいます。テストも自らが向上するチャンスと考え、必死で取り組みましょう。



勉強法について

自分にあった勉強法は自分で見つけるものですが、少しでも参考にしてもらえればということで、何度か掲載していこうと考えています。今号では、2点紹介します。

覚えたいことは、徹底して声に出して読む

これは、安河内哲也氏の『できる人の勉強法』(中経出版)にあったものですが、筆者自身も授業で何度も強調しているものです。短時間で勉強できる上に、記憶にも残るということをも沢山の人が言っています。覚えるものであればどの教科でも使えると思います。恥ずかしがらずに、面倒がらずに、やってみるべきだと思います。単純ですが、効果絶大です。

深い記憶にするための方法

これは、テレビや講演などで活躍されている植木理恵氏が唱えている方法です。(参考:旺文社パズナビホームページ)

覚えようとするところがある場合、覚えようとするのではなく、その事柄の意味を考へること、理解することが記憶の近道だということだそうです。以下の例文を覚える場合に、眺めているだけだったり、何度も読んでみたりしても、なかなか覚えられないので、自分で勝手に意味を作ってしまう方法です。

眠い男が水差しを持って立っていた (コーヒーを入れるために)
太った男が鍵を買いに出かけた (冷蔵庫に鍵をかけるために)
腹の減った男がネクタイをしめた (レストランに行くために)

()の中が作った意味

植木氏は、以下のようにまとめています。

「こういうふうに、『なぜなら』を勝手に補う習慣をつけてみてください。意味をなさなかった事柄に、意味が出てきます。すると、深い水準で物事が頭に入り、長期記憶としていつまでも留まるようになりますよ。」

みなさんの中には、単語や漢字を単なる記号のように、何の意味もなく覚えている人がいるのではないのでしょうか。一見遠回りそうで、記憶に残るこの方法、試してみてください。

大学説明会

6月は20日に琉球大学観光産業科学部、21日に沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学、28日に沖縄女子短期大学の説明会が行われました。それぞれに入試で大切なこと、大学生活についての具体的な話を聞くことができたと思います。大学の人と直接話をするのは、本やインターネットで調べるのとはまた違って、非常に刺激になります。各大学でオープンキャンパスも行われるので、ぜひ積極的に参加してみてください。



琉球大学

沖縄キリスト教学院大学・短期大学



沖縄女子短期大学

お知らせ

夏期講座の納金が今週中となっております。早めに済ませるようにしましょう！